

スイス日本語福音キリスト教会

<http://jeg.meielisalp.ch/>

ニューズレター 84号

2008年8月23日発行

第25回ヨーロッパキリスト者の集い特集



あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

エペソ 2 : 8

Eure Rettung ist wirklich reine Gnade, und ihr empfangt sie allein durch den Glauben. Ihr selbst habt nichts dazu getan, sie ist Gottes Geschenk.

Epheser 2 : 8



尊い主の御名を賛美します。

(1) 第25回 ヨーロッパ キリスト者の集いは、マルチン ルター (1483-1546) が宗教改革の口火を切ったヴィッテンベルグ (旧東ドイツ、ベルリンの100km南、エルベ川添いに発達した古都) にて、326名の参加者 (スイス教会からは22名が参加) をヨーロッパから、世界から得て、7月30日に開催され、主の臨在と圧倒的な恵みと祝福のなかで8月3日終了いたしました。この集いの準備と開催のためにデュッセルドルフの兄姉に必要なすべてをお与えくださった主なる神様、並びに、2年間に渡って持てる時間とエネルギーをすべて注いでくださった兄弟姉妹に心から感謝を申し上げます。兄姉の労苦に神様の豊かな報いがありますようにお祈りしております。



期間中の講演説教は、現在アップロードの作業中で、のちほどデュッセルドルフ教会のホームページからお聴きになっていただける予定です。

<http://dus-japanese-kyoukai.hp.infoseek.co.jp/>

今回の“集い”のオンライン アルバムは以下のURLでご覧になって頂けます。

http://photos.yahoo.co.jp/matsubayashi_august

また、第20回から24回までのオンライン アルバムも下のURLで観て頂けます。

<http://photos.yahoo.co.jp/obiokononiyaki>

今回の集いの“記録ビデオ”も、城教会でのコンサートすべてを含むノーカット版 (57分) と編集版 (22分) と2種類DVDとなってできていますので、ご希望の兄姉は松林までご連絡をください。

ヨーロッパ キリスト者の集いに参加して



「城教会でのグナーデンアンサンブルの賛美では、感謝の思いでいっぱいでしたが、さらに感動したのは「神はわがやぐら」の会衆賛美が教会堂いっぱいに鳴り渡った時でした。森優先生の話では現在はこの城教会の普段の礼拝にはほとんど人々が集っていないとのことでした。そして北ドイツの伝統的な教会の礼拝の場合、オルガンの音は鳴り響いても、会衆賛美の声はほとんど聞こえない状態です。それが、ルターが95カ条の提題を貼り付けた教会で、ルターの作詞作曲した「神がわがやぐら」がこれほどに朗々と、教会堂いっぱいに響き渡った事…感動でした。ドイツ人の皆さんもルターの提唱した信仰の原点に立ち返り、またこの教会を賛美で満たして欲しいと願わずにはおれません。」



井野 葉由美
北ドイツJCF

本当に素晴らしく恵まれた修養会、デュッセルドルフの兄弟姉妹の方々のお働き、参加された皆様、全てをお守りくださった主に感謝です！修養会後も、日々の生活の忙しさにまぎれずに、聖書のみが実行でき、生かされますようにと祈る毎日です。

遅ればせながらスナップをアップロードさせていただきます。皆様全体を取ったものではなくCSの子供達の写真が多いです。下記のホームページからスライドショーと個々の写真をクリックしてオリジナルサイズでご覧になれます。

<http://photos.yahoo.co.jp/mdsunsunfr>



清水みどり

パリ日本語教会

主の御名を賛美いたします。

2008年のヨーロッパキリスト者の集いに参加する事が出来て心から主に感謝しています。ドイツ、シュツットガルトで信徒伝道されイエス様と出会い、洗礼を受け家庭集会を通して育てられ、2005年に帰国しました。



紹介された浦和の教会へ通うようになって3年になります。去年11月に教会員になることが出来、春からは婦人会の役員のご奉仕も始まりました。2004年のキリスト者の集いに参加し聖なる公同の教会を経験した私は、帰国当時は「公同の教会の一員であればいい」と思っていました。

だが、礼拝を毎週守ることができる恵みと会衆讃美で主に賛美できる喜び、そして地方の教会に繋がる事の大切さ、その責任の大切さを主の導きで教えていただきました。

そのような時にまたヨーロッパに招かれた事は、帰国していくクリスチャンの兄弟姉妹のその後に重荷を持って祈る方々の多い中、その祈りによって無事に教会生活を続けている者もいることを証する事が出来て感謝いたしました。ヨーロッパでの宣教の為に尽くしていらっしゃる先生方、その同労者として共に尽くしていらっしゃる信徒の方々の為にお祈りしています。

在
主
関
谷
典
子



幸いな交わりのとき、心から感謝します。 (^o^)
多くの愛する兄弟姉妹、先生方との出会いで多くの恵みをいただきました。私にとってヨーロッパ集会は素晴らしい交わりの場です。キリストにあって、生い立ち、環境は違っても、与えられているその場で、証をしながら奉仕を続けておられる方々の素晴らしい笑顔は、信仰生活の支えです。また、神様による「出会い」によって多くのコンタクトを得、これからの奉仕に、大いに役立たせていただきます。

ブルーリボンの祈り会も感謝でした。クリスチャンは時には考え、思い、口にするのですが、なかなか行動に移さないことが多い中、小さな奉仕であっても、心をひとつにして、戦乱、飢餓、弾圧、迫害、束縛の中にあつて困窮している方々のために、何らかの即行動は必要だと思います。世界平和のために手を挙げていきたいですね。

ヨーロッパ集会での再会を感謝しつつ、来年もお会いできることを期待して。

金
子
進
オ
ス
ロ
ー
J
C
F

今回、藤巻さんが「ぼくが撮ったのを見せたら、あっちゃんを嫁に欲しいというのを撮ってあげるよ」とおっしゃるので、「じゃあ是非お願いしますーウ！」とカメラをお渡ししたのですが、最近おすしを握りすぎて手が震えたせいか、80%が完全ピンボケ状態でありました。

でも確かに、ボケボケに写っている私を見ると（ほとんど誰かも分からないボケ状態）、もしかして絶世の美女かもしれない、と想像させるものがありましたから、藤巻さんのおっしゃるとおりかもしれません。でも、数枚、きちんと映った写真もありました。しかしながら、こちらの方は、とうてい嫁に欲しい、と思わせるものではありませんでした。



工
藤
篤
子

どこかを旅する時は、その地についてしっかり調べておくと、旅行が数倍楽しくなるとは、よく聞く話です。

今回の集いの開催地は、ルターの宗教改革の地ヴィッテンベルグでした。ルターは、聖書に記されたキリストの福音に深く動かされ、キリスト教信仰の核心は、自ら努力して「神の義」を獲得するのではなく、神の恵みと愛によって与えられる「神の義-救い」という再発見をいたしました。私達が今、普通に「聖書」が読めることは、当たり前的事ではなく、神の恵みによるという事。またそのために主によって導かれ、動かされた人がいた事を今回の集いでは、より深く明確に学ぶ事が出来て感謝でした。



へ
ス
明
美
ス
イ
ス
日
本
語
福
音
キ
リ
ス
ト
教
会



テーマ「信仰のみ、聖書のみ、恵みのみ」。このテーマは私にぴったりでした。8月1日(金)午後に始まった「信徒の証し」で話したのですが、郷里の浜松に於いてスウェーデンの宣教師の導きによって始めて入信しました。

私が16歳の時でしたが、今思うとその頃の私は実に純真(ナイーブ?)で素直にヨハネ3:16を受け入れて神様の愛を信じたのです。その時からすでに50年以上の歳月が経ちました。決して順調で楽な信仰生活ではありませんでした。失敗、失望、疑い、裏切り等上がり下がりでの激しい信仰でした。が73歳になった現在まで、何とか信仰を捨てることなく、神の愛にすがってこれたことは実に「恵みのみ」の奇跡でした。

5分で語ったあの証の中で二つのことを私は強調しました。「初心に戻れ」、つまり初めの愛に常に返ることが私の救いになったのです。もう一つは「違った考えを裁かず、自分とは違った信仰の持ち方もあることを認める包容力のあるクリスチャンでありたい」。この二つでした。今までずっと健康に恵まれ、病気にもあまりかからず、病院のお世話になることは稀でした。しかし73歳になった現在、急に体力の衰え、頻繁な物忘れ、体調の変化に気がつくようになり、「死の現実」について考えをめぐらし、と同時に「神にある永遠の命」のことを考える時が多くなってきたこの頃です。

聖書のみに基づいた信仰を曲りなりにもこれからも守り続けいけるように、神の恵みに一途にすがっていきたいと願っています。そしていつでも神の御許に帰ることができるようにと心の準備をし、残された家族の便宜を計っていくつもりでいます。

中村衛
スウェーデン日本語集会

ヨーロッパに滞在して5回目の夏、ようやくこの会に参加出来ました。四日間の学びから、世界中のプロテスタント教会が今日存在し得るのはルター師のお陰であると思えます。また、欧州の日本語教会、集いに集う兄弟姉妹がこれほど沢山いらっしゃることに、そして「信仰のみ、聖書のみ、恵みのみ」に基づいて身を捧げておられることを知って大変励まされました。



この修養会の為に多くの方々が労してくださったことを覚え主に感謝致します。

仏/リヨンより 小林邦子

主の御名を讚美致します

「第25回ヨーロッパキリスト者の集い」に参加させていただけたことを、主に心から感謝しています。

いろいろの事情が重なり今年の参加は、人間的に考えたら無理だと思っていた不信仰な私です。ですが主はやはりすごい方です。すべての道を開き、参加できるように導いてくださいました。

『主のなさることは時にかなって美しい』 もう何度も経験させていただいていますが今回も主の御業を見させていただいて ただただ感謝！ それだけです。



集いにおいてもとてもたくさんの恵みをいただき久しぶりにお会いできた方々との楽しい交流。私のような者を心配して祈ってくださっている方々に励まされ 愛ある兄弟姉妹が与えられていることの素晴らしさに心の底から喜びで満たされました。

それに加えて神様は毎回、私に素敵なプレゼントを用意してくださるのですが今回も「これからこの人のためにお祈りしなさい」という人を目の前に連れてきてくださるし、私が毎日

ひそかにお祈りをさせていただいている方にも必ず引き合わせてくださるのです。相手の方を知ることにより今まで以上に近い存在となり、顔を思い浮かべながらお祈りさせていただけるので、神様はもっとその方のためにお祈り下さいと言っておられるのだと思い、すごい励みになります。

集いに参加する度にお祈りさせていただく方が増えるので“嬉しい悲鳴？”をあげています。決して私のお祈りに力があるわけではありませんが お祈りを聞いて応えてくださる神様がすべての方を最善に導いてくださることを信じてこれからも神様との語らいの時間を大切にしていきたいと思えます。

来年はフィンランドですね。もう実行委員の方々にもお会いする機会が与えられました。これからも共にお祈りさせていただきます。次回もまた人間的に思ったらフィンランドは無理だろうと思っている私に主はどういう道を用意して下さるのか今から楽しみにしています！！



ヴィッテンベルグ ルターホテル

栄光在主

脇山多恵子

スイス日本語福音キリスト教会

城教会の賛美礼拝を終えて、



「田辺先生、ルターの立った説教壇で説教される先生を見ていたら、マルチン ルターか、ゴルバチョフがそこにたってるんでは、と思えてきましたよ！」とM兄。

すかさず みや子先生 「そうなの！家の猫がね、ゴルバチョフが写っているテレビの画面を、じーと舐めるように見てたのよ。パパだと思って、。」

M兄 「分かった！その猫の名は、きっとプーチンというんでしょう！？」

主の御名を賛美致します。

今回、キリスト者の集いに参加する前には、前回ミラノの修養会では自分の不信仰さを教えられて、帰宅してからは反省して心を入れ替えようと思いつつも、同じ生活のまま、もしくはいくらか信仰的に悪化した状態で今回の修養会に挑むこととなりました。

修養会の一ヶ月前には今回はどれだけ自分の弱さや不信仰を見せつけられるのやらと不安でしたが、直前になると、それはそれで、ありのままの自分で行ったら良いんだという思いが与えられ、100%リラックスして参加することができました。不思議なもので、講演会等のメッセージは自分のために語っていただいているように響いて来て、今まで何でそんな事もわからなかったんだろうか、と言う目から鱗状態の言葉もあつたりで、かなり多くを教えていただきました。

分かち合いではリーダーになってしまい、どうなることやらと思いましたが、リーダーを助けるのが得意な方々を事前に面接試験をしてわざわざ集めて来たようなメンバー（本当です。）で、皆さん話すのが上手で本当楽しく、尚且つ内容のある分かち合いでした。

本当にすべてに感謝な修養会でした。

多くの恵みをいただいて、果たして今回は来年までに霊的に成長できるかどうか・・・は来年までのお楽しみにしておきます。

伊藤政彦

ブリュッセル日本語プロテスタント教会



主の栄光を仰ぎ見る

「すべてのことはあなたがたのためであり、それは、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためです。」 第2コリント4章15節

25回目の年輪を刻んで、2008年8月3日ドイツ、ヴィッテンベルクに於けるキリスト者の集いは幕を閉じました。今年も恵みの雨に浴し、新たな力をいただき、感謝に満ちあふれて帰路に着きました。安藤先生始め、デュッセルドルフ、日本語教会の兄弟姉妹、大変お世話になりました。

今年のキリスト者の集いは私にとって、特別忘れられない年となりました。

2006年の暮れに骨粗鬆症が原因で背中を痛めて以来、2年近く闘病生活を余儀なくされました。この間、得たものが多く感謝あるのみです。闘病生活に入ったとき一つの御言葉が与えられました。「私は主を仰ぎ見、私の救いの神を待ち望む。私の神は私の願いを聞いてくださる。」ミカ書7章7節

この御言葉に支えられながら、主の御業を待ち望みました。今年1月に背中専門の優秀な外科医が与えられ、手術を勧められました。しかしながら、危険を伴う大きな手術であるため、よく考えて返事をくれるよう何度も言われました。私は、手術が可能と知った時点で決心しました。御言葉の応答と受け取ったからです。必ず主は癒してくださると確信しました。手術を受けることが決まったとき、主人は日本やヨーロッパの兄弟姉妹にメールやFAXで祈りの応援をお願いしました。すると、毎日のように温かい励ましのメール、FAX、手紙が届きました。大きく広がっていく輪の中心に臨在される主の御愛を実感しました。私のような取るに足らない小さな者に注いでくださる主の御愛に感謝し、御名を賛美いたしました。

手術は3月17日と28日に、成功裏に終わり、一ヵ月後リハビリセンターに移りました。術後のリハビリも大変厳しいものでしたが、皆様のお祈りに支えられ励むことができました。手術の成功で集いへの参加を確信し、申し込みと飛行機のチケットを購入しました。順調に回復していましたが、集いの一週間前、新たに背中へのセメント注入の治

療を受けました。参加が危ぶまれましたが、会場に向かわなければならない日の前日に退院することができました。人間の思いをはるかに超えたところで働かれる主の御計画と御業に感謝し、主の御名をほめたたえました。

会場では多くの兄弟姉妹が私の参加を喜んでくださ



り、改めて主の家族の素晴らしさを味わいました。はじめは、参加するだけで証しになると思っていたのに

今、私は与えられた病を主に感謝しています。教会学校に導かれ今日まで教会を離れたことがなく、主の守りの御手の中を歩ませていただきました。洗礼を受けてから52年、信仰生活に安住し、自我が砕かれず、愛の無い自分に気付きながらも自分を変えることができませんでした。主は病を通して私を悔い改めに導き、隣人への愛の足りなさを示されました。

入院中、仕事を抱えながら、毎日のように病院に弁当を届けてくれ、汚れ物を洗濯のために持ち帰ってくれた主人の優しさと愛に、

「主よ、私を生かしてください。そして主人の役に立てますように」と泣きながら祈りました。また、子供たちに厳しかった子育て時代ことや、教会の兄弟姉妹への愛の無さを示され、主の前に懺悔いたしました。すると、心に開放感と平安が与えられました。この病を通して、祈りの大切さも教えられました。小さな欠け目だらけの器ですが、空にして主に捧げてゆきたいと思います。お祈りありがとうございました。

来年のフィンランドでの第26回キリスト者の集いが祝されますよう、お祈りいたします。

皆様のお祈りに感謝しつつ、主に在って、

作田安子

パリ日本語プロテスタント教会



今年のテーマは、「信仰のみ、聖書のみ、恵みのみ」でありましたが、私にとりましては、「憐れみのみ」でした。私ども夫婦の健康上の問題から、2年前のスイス エメッテンに於ける集い辺りから参加が危ぶまれておりました。しかしながら、主の深い憐れみと多くの方々の祈りに支えられて、家内は車椅子でしたが今年も参加することができました。お世話くださったデュッセルドルフの兄弟姉妹、又祈りで支えてくださった多くの皆様に心から感謝いたします。

第一回の集いの提唱者、伊藤和人兄との再会、工藤篤子姉の温かい呼びかけによる城教会での特別賛美への親子参加、懐かしい方々との交わり、先生方の深い御言葉の解き明かし、いずれも良い思い出として残ることでしょう。25回も連続で出席させていただいたので、そろそろ潮時かと思っていましたが、来年のフィンランドの皆様へのPRビデオを見せていただき、赦されるならば来年も出席したいとの思いが与えられ、祈り始めている次第です。

主に在って、
作田銀也
パリ日本語プロテスタント教会

このところ毎年「ヨーロッパ・キリスト者の集い」に参加することを目標のひとつとして娘の住んでいるスイスに来ています。リヨンでこの集いが開催された時が最初の参加でした。毎年参加するようになり、いろいろ状況の変化があるでしょうがどこまでこの記録が続くか挑戦したい気持ちです。



世俗的でマンネリ化した当時のキリスト教社会に警鐘を鳴らし、改革を求めたルターが活躍したWittenbergで「第25回ヨーロッパ・キリスト者の集い」が開催されたことは非常に喜ばしく神様に感謝いたします。というのもこの集いも第一回開催から1/4世紀を経て、ややもするとルターの生きた時代と同様プロテスタント・キリスト教世界も沈滞気味で、改革を必要とする時期にあり、「信仰のみ、聖書のみ、恵みのみ」というテーマに沿った「集い」がこの地で開催されたことです。参加者は日頃住み慣れた家に戻り「集い」で学んだことをルターの如く初心に戻りやるべきことを実行できるかを問われています。

プログラムの編成は過去の集いとあまり変わり映えしませんが、特に印象に残ったのはルターと縁のある城教会で音楽礼拝形式の講演が第3日の夜行われたこと、また講演前のオルガン演奏の素晴らしさに痺れました。その他「ルター記念講演」「信徒の証&伝道」タイムが設けられたことです。信徒が牧師を通して一方的に学ぶのではなく、積極的に集いに参加する意味で信徒による証はこれからもプログラム編成時に考慮していただきたいと



思います。更に証を拡大解釈して、神様から一方的に受ける愛、恵みについて語るだけでなく、聖書を読み、理解し、聖書から学んだことを日々の生活の中でどの様に生かしているかを語るような場であっても良いのではないのでしょうか。

私は受洗してまだ4年くらいしかありませんが、家族が次々と家内の伝道により受洗していくのを身近で体験し、むしろ反発しながら肩身の狭い思いで約30年過ごしていました。洗礼を受けようと決心した直前に日本の教会の牧師と聖餐式のあり方について衝突し、それま

で主日礼拝、祈禱会はいつも出席していましたが、それからの5年間は完全に教会から遠のいてしまいました。それでも毎年ヨーロッパで開催される「集い」とスイスの教会での礼拝には出席していました。

今までの「集い」では求道者を対象とする分かち合いの場として求道者グループが編成されていましたが、今回は信徒と共通の場で分かち合うという方針で特別なグループを設けていなかったと思うのですが、求道者に対する特別な伝道の場となりえると考えれば少し配慮が足りなかったと思います。マイナーな立場にある人にはいつも細心の配慮を向ける必要があると思います。

神様の御臨在の下、天候に恵まれ大きな事故もなく「集い」が無事終了できた事を神様に感謝するとともにお世話くださったデュッセルドルフの皆様のおかげもてなしに深く感謝いたします。そして皆様に特別大きな神様のお恵みが用意されていることをお祈り致します。



在主
村上幸夫
大阪のぞみ教会

第26回 “ヨーロッパ キリスト者の集い” は、09年8月5日から9日まで、フィンランド ヘルシンキで開催されます。また、第27回はスペイン マドリード、第28回はイギリスで開催の予定です。

第26回 ヨーロッパ キリスト者の集い

テーマ「十字架のもとから」

それゆえ、あなたがたは行って、
あらゆる国の人々を弟子とせよ。
—マタイ 28章19節—

2009年8月5日（水）～9日（日）

開催場所：ヤルベンパー チャーチ・トレーニング・カレッジ
Järvenpään Seurakuntaopisto (Järvenpää Church Training College)
Järvenpääntie 640, 04400 Järvenpää, Finland
http://www.seurakuntaopisto.fi/sivu.php?artikkeli_id=47

<宿泊費>

大人1泊3食付：60～70 EUR（部屋タイプにより異なる）
子供5-12歳：半額（追加マットレス利用の場合割引あり 4歳以下：無料）

<収容人数> 240名

主催：フィンランド集会 <http://suomenjk.exblog.jp/>
One Vision Mission Church <http://www.ovmcnet.com/>
お問い合わせメールアドレス tsudoj2009@gmail.com



日いずる国から

大阪は堺市の唄野隆先生から

スイスJEGニュースレター83号有難うございました。最初の写真、アルペンローゼの写真、田辺先生のメッセージの最後の山の写真には感動しました。皆様お元気で、あちこちでご活躍のこと、感謝し喜び、御名を崇めています。

まもなくヨーロッパキリスト者の集いですね。素晴らしい集会となりますように。ドイツ・バロック音楽の演奏が出席者だけでできるというのはすごいなあ、と感心しています。ヨーロッパのクリスチャンの音楽的豊かさは素晴らしいですね。

7月の初めから年相応ですが、前立腺肥大の手術で入院していましたが、そのゆっくりした休みの期間、ジェームス・フーストンのJOYFUL EXILESを読みました。教義や教会制度に基づく教えではなく（それぞれ大事なことです）、主との出会いの体験、そして日々の主との交わりが信仰の核心だ。それだから教えよりも主との交わりの経験の「物語」が人の心に伝わると確信して正直に自分自身の霊的体験を語る彼の語り口に共感しました。



そして、彼の話の背景をなしているヨーロッパのキリスト教文化の豊かさ、深さに感嘆しました。アジア、アフリカ、ラテンアメリカのキリスト教会の動きに触発されることが多いこの頃ですが、ヨーロッパのキリスト教から学ぶべきことはまだまだ多い、と思いました。それで、退院してから、アウグスチヌスの告白を読みはじめました。フーストンの本を読んだとき、アウグスチヌス、ダンテ、キエルケゴール、ドストエフスキーを読みたいと思出したからです。でも今は療養中で時間があるので読めますが、元気が出てきたらどうなるでしょうか。でも、少しずつでも読んでいきたいと思っています。

芳賀先生がヨーロッパの諸教会で用いられていること、感謝です。中沢先生もシンガポールJCFで大活躍ですし、私たちの似た世代の先生方が、定年後も海外でご活躍のこと、嬉しいことです。田辺先生の御奉仕にも感謝し、祈っております。

後になりましたが、手術は成功し、術後の経過もよく、8月4日から9日までのIFES,EARC2008（東アジア地区12カ国からの大学生200人、日本の大学生200人が参加）で分科会を担当し、9日のKGK60周年記念会にも参加することになっています。手術のために多くの方々に祈っていただいたことを感謝しています。後1週間ほど、体力の回復につとめます。

スイスJEGの皆様方によろしくお伝えください。平岡さんが礼拝に出、主にある交わりができる道が開かれるよう、ヴァイラント千佳さんのあまねちゃんの成長のために祈っています。

唄野隆



みことばの理想

「聖書のみ」「信仰のみ」「恵みのみ」

7月31日から8月3日まで「第25回ヨーロッパキリスト者の集い」が、ルター縁の地であるヴィッテンベルクでもたれました。信仰の歩みを60年近く送っている私にとっても、数え切れない恵み、みことばの数々を思い起こされたときでもありました。ルターの心を騒がせ、「聖書・信仰・恵みのみ！」と、叫ばせたものは何だったのか？と、メッセージに耳を傾けながら、思い巡らしていました。

主の歩まれた道、パウロ等使徒たちの歩んだ道、旧約の時代の真の預言者たちの歩んだ道、又、現在も主のみを愛し、そのみことばに立ちみことばにのみ従って歩もうとしている人々の道・・・それらが皆重なって見えてきました。それは、決して生易しい道ではなく、血みどろな激しい斗いの道であったように思えました。

義のために迫害されている者は幸いです。

喜びなさい。喜びおどきなさい。天においてあなたがたの報いは大きいからです。

あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。

—マタイ5：10、12—

確かに、キリスト・イエスにあつて敬虔に生きようと願う者はみな迫害を受けます。

—IIテモテ3：12—

主はご自分の国に来られたのに、その民は主を受け入れませんでした。昔の迫害を受けた預言者たちも、仲間の預言者たちからのものでした。パウロも嫉みに駆られたユダヤ人（同胞）に付き纏われました。アベルもカインに、ダビデもサウロに、私たち同じ主を信じる者同士の間引き起こされる闘い！ ヘブル4：12をもって、又、エペソ6：11-18を参考に、私たちも心して「聖書・信仰・恵みのみ」によって歩み続けましょう。

田辺みや子

